

2021.04.14

# 12歳の検挙者も…学生による「大麻」犯罪がたった4年で5倍になっていた

若者を中心に深刻化する薬物乱用



鷺尾 香一 ジャーナリスト

プロフィール

## コロナ禍でも増加した「大麻」「合成麻薬」犯罪

20年、新型コロナウイルスの感染拡大で活動が停滞する中、薬物犯罪が増加している。その要因となっているのが、若年層を中心とした「大麻」と「MDMA等の合成麻薬」の広がりだ。



photo by iStock

警察庁の「20年の組織犯罪の情勢」によると、薬物事犯検挙人員は1万4079人と前年よりも771人（5.3%）増加した。

このうち暴力団構成員等の検挙人員は4387人で前年から189人（4.1%）減少、薬物事犯の検挙人員の占める暴力団構成員等の割合も34.2%から31.2%に低下した。検挙件数も前年から827件（4.5%）増加して1万9231件となった。

20年の薬物事犯には大きな傾向が現れている。薬物区分の「覚醒剤」「大麻」「麻薬及び向精神薬」「あへん」の中で、「覚醒剤」事犯の検挙件数は、前年から104件（0.9%）増の1万2124件、検挙人員で113人（1.3%）減の8471人と横ばい圏となっている。

これに対して、“大麻”は件数で580件（10.7%）増の6015件、人員で713人（16.5%）増の5034人、“麻薬及び向精神薬”は件数で136件（14.4%）増の1081件、人員で105人（23.0%）増と大幅に増加している。

また、“あへん”は検挙件数11件（検挙人員12人）とごくわずかであり、この傾向に大きな変化はない（表1）。



## 永久に持っていたい6つの米国株

日本人が知らない年24回の配当収入とは？

Oxford Club Japan

①×

▶▶▶詳しくはこちら

表1:薬物区別検挙件数(件)



検挙人員に占める暴力団構成員等の割合は、“覚醒剤”で42.2%（前年は43.5%）なのに対して、“大麻”は14.9%（同18.1%），“麻薬及び向精神薬”は10.5%（同12.7%）と極めて低く、**大麻や麻薬及び向精神薬が暴力団構成員等以外の人間によって使用されていることを物語っている**ことを物語っている。



NEXT ▶ 大学生、高校生が…

1 2 3 4 >

記事をツイート 記事をシェア B! 記事をブックマーク

1名あたり/税込価格  
【GoToトラベル対象】二条城より徒歩5分◆朝全室除菌で安心！伊勢志食無料◆無料駐車場（先着10台）  
**ホテル&リゾーツ 伊勢志摩**  
ホテル京都堀川イン二条城前

￥6,650～ [空室確認](#)

1名あたり/税込価格  
5/13  
**ホテル&リゾーツ 伊勢志摩**  
￥6,650～



知らないと大損をする「確定申告」…ルール改正で「もらえる額」が変わる！



じつは「修繕費」にならない…？ 経費で「修繕費」の意外な落とし穴「消耗品費」との違いをご存じ

スモビバ！編集部

スモビバ！編集部